

《男女共同参画の移り変わりを見据えて、これから取り組むこと》

年	男女共同参画の歩み
S50	国際婦人年世界会議開催 総理府に婦人問題企画推進本部 設置
S55	厚木市総合計画で婦人の社会参加 への対応を明確化
S57	厚木市婦人会館（あつぎパート ナーセンター）開館
S58	婦人会館だより創刊 第1回婦人会館フェスティバルを 開催
S59	本市初の小学校女性校長就任
S60	女子差別撤廃条約批准
S61	男女雇用機会均等法施行 婦人の意識と行動に関する意識 調査実施
H元	あつぎ女性プラン21を策定
H4	育児休業法施行
H7	改正育児・介護休業法施行 第4回世界女性会議において北京 宣言採択
H8	企画部に女性政策課設置
H9	男女共同参画社会に関するアン ケート実施
H10	女性行動計画あつぎパートナーブ ラン策定 施設名を女性センターに変更 女性情報誌ハーモニー創刊 婦人会館だよりをスマイルに変更
H11	女性センターと女性政策課を統合 して市民部女性政策課になる 本市初の女性消防士採用 スマイルとハーモニーを合併して ハモニイとして発行開始 改正男女雇用機会均等法施行 男女共同参画社会基本法施行

平成26年4月、32年もの間、男女共同参画の活動の拠点であったあつぎパートナーセンター（旧婦人会館）が、その歴史に幕を閉じました。あつぎパートナーセンターでは、その間、社会的背景の追い風に乗れ、男女共同参画社会の実現に向けて様々な講座やイベントを行ってきました。今号では、この『歴史』に着目し、昭和50年、メキシコシティで開催された『国際婦人年世界会議』を基準として、それ以前と以降の社会的背景の移り変わりや、メディアを含めた私たちの意識の変化を振り返ることで、男女共同参画社会の実現への歩みを止めないために必要なものは何なのかを検証しました。

年	男女共同参画の歩み
H12	ストーカー規制法施行 男女共同参画基本計画策定
H13	DV防止法施行
H14	男女共同参画社会に関するアン ケート実施 改正育児・介護休業法施行
H15	施設名をあつぎパートナーセン ターに変更 厚木市男女共同参画計画策定 厚木市男女共同参画推進委員 (現男女共同参画リーダー)設置
H16	課名を男女共同参画課に変更
H17	本市初の女性消防団員誕生
H19	厚木市男女共同参画市民意識 調査実施
H20	男女共同参画推進委員から男女 共同参画リーダーに変更 改正DV防止法施行
H21	人権推進課と男女共同参画課を 統合して協働安全部人権男女参 画課になる
H22	改正育児・介護休業法施行
H23	厚木市男女共同参画市民意識 調査実施
H25	厚木市男女共同参画計画を改定 最後のパートナーフェスタ開催 改正DV防止法施行
H26	あつぎパートナーセンター閉館 (平成26年4月30日)

【仕事や社会的背景】

昭和20年頃

- 女性の職業は、**学校の先生**や**看護婦**など**限られたもの**しかなかった。
- 男女では同じ仕事をしていても、様々な面で**待遇の差**があった。
- 女性は職場の花と言われ、結婚して**寿退社**をする人が多かった。

【地域・家庭】

昭和20年頃

- 家庭内は**男性中心**！（お父さん、おじいちゃん）。
- 男は男らしく、女は女らしく**という風潮。
- 学校では、**名簿**や**授業（家庭科等）**など、**男女をわける**ことが多かった。
- サラリーマン**が急増し、**専業主婦**が多かった。

『まだまだ男女共同参画の意識は低かった！』

国際婦人年世界会議開催
基準とした年：昭和50年

- 女性の職場での**役割の差**に、女性は**気づき**、処遇の改善に取り組むようになったが、男性はその女性の変化に**気づかず**、意識すらなかった。
- 「わたし、作る人。ぼく、食べる人」というCMが問題となり、社会が疑問を持つようになった。
- 男女間の役割の意識は、まだまだ固定されていたことを象徴するように「**亭主元気で留守がいい**」という言葉が流行。
- 空前の好景気。**バブル世代**では、不動産・金融業が人気であり、**起業する女性も増加**。
- 女性管理職が誕生し、女性の職場での活躍が増える。

- 女性の**自立心**が芽生え、**共働き**家庭の増加。
 - 核家族**が増え、**鍵っ子**も増加。
 - 自立した女性の意識がさらに高まり、仕事だけでなく、地域などで参画する女性が増え、性別に関わりなく、様々な分野で活躍できる、**『男女共同参画』への意識が芽生える**。
-

『職場や地域などで女性の参画する機会が増え、男性の意識も変わってきた！』

平成そして現在

『平成に入り時代の流れは急激に変化。その原因はインターネットや携帯電話などの普及！』

- IT時代**の到来により社会は変化し、**職種や働き方が多様化**した。
 - 上司・部下の付き合い方も変化してきた。
 - ワークライフバランス**の意識が高まる。
 - 草食系男子、肉食系女子**という言葉が流行り、男女の考え方や趣味が変化。
-

- 女性**PTA会長**が誕生し、女性の地域等での**参画意識の向上**。
 - 家族の構造・ライフスタイルの変化。
 - 小中学校では、男女混合名簿が導入された。
 - 主夫、イクメン**など**男性も家事や育児をする**時代へ。
 - 子どもにもPCや携帯が身近なものとなり、友達付き合いにも変化が...
-

※黒字は世界、赤字は国、青字は厚木市の出来事（備考）「厚木市男女共同参画計画」付属資料より作成

世代間の意識の差を埋めることが、男女共同参画社会の実現のカギを握っているんだね！ブフフ

歴史を振り返る事で「気づく」ことがいっぱいあるんだね！ブフフ

《検証》
『男女共同参画社会』とは、すべての人が尊重され、様々な分野で個人の能力を発揮することができる社会です。一人一人が自信と誇りを持ち、他者を思いやり、平等意識を持ち、自己の行動に自覚と責任を持つことが必要だと思えます。
しかし、「夫はサラリーマン、妻は専業主婦」の家庭に育った年代と、男女混合名簿で育った年代では、男女共同参画の意識には、まだまだ世代間で**隔たり**があり、この差を埋めることが**今後の推進へのカギ**を握っているのかもしれない。

《未来へ向けて》
インターネットや携帯電話の普及により、不足しがちな**コミュニケーション**をとることを心がけることが大切！
男女がお互いを尊重し、と・も・に、助け合う事こそ男女共同参画社会の実現に必要！

《結果》
厚木市では、**昭和50年に開催された「国際婦人年世界会議」**を機に、男女が共に尊重され、個人の能力を十分に発揮できる社会の実現を目指し、試行錯誤を繰り返しながら歩んできました。しかし、**インターネットや携帯電話等の普及**により、社会は急激な成長や変化を遂げており、それに伴い**人とのつながりの意識や価値観**も多様化しています。
歴史を振り返ることで、男女共同参画の原点に立ち返り、男女がお互いを理解し、尊重し、**人との対話や助け合う事の大切さ**に気づくことも必要ではないでしょうか？